

Weekly Bulletin

2017-2018



RI会長
イアン H.S. ライズリー



ロータリー：
変化をもたらす

静岡東ロータリークラブ

会長／高田雅司 幹事／川崎依子

事務局／静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場／ホテルアソシア静岡 例会日／毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
高田雅司

第 2828 回例会

平成 29 年 10 月 5 日 天候 曇り

- 《司 会》 川崎 依子 君
- 《合 唱》 「君が代」「奉仕の理想」
- 《BGM》 ジョージ・ウィンストン
「AUTUMN」(秋の音楽)
- 《ゲスト》 NPO 法人静岡山の文化交流センター
理事長 山本 良三 様
- 《ビジター》 なし

《本日のお祝い》

<u>お誕生日</u>	<u>結婚記念日</u>
10月5日 川口 尚宜 君	10月 7日 安本 守男 君
10月6日 宮城 展代 君	10月11日 大村 幸代 君

《会長挨拶要旨》 高田 雅司 会長



皆さん、こんにちは。 今日は何をお話しさせて頂こうかここ2,3日思いを巡らせていたのですが、適当なテーマも思い浮かばず先週に引き続いてクラブの状況と例会に出席し思いついた事に付きお話しさせていただきます。

少々、苦言めいたこととお話しさせていただきます。毎回出席グループより出席率の報告があります。ここに来て出席率の低下が顕著で、ものすごく気がかりであります。初回こそ96%の出席でしたが8月17日以降90%を割る出席となっており例会の在り方など考えさせられ会長としての責任も痛感しております。

出席率だけがクラブの活動の評価だとは思いませんが例会がロータリーの活動の根源・根本だと、考えております。

今年度、“親睦”と“奉仕”をメインテーマとして掲げさせて頂き、静岡東ロータリークラブの活動の全てがこのテーマを見据え、これに向かうものとして、すべての委員会やグループ、会員に認識・理解をお願いしました。

例会の出席率は、会員一人一人の、職業人として 個人として、社会人として、そしてロータリアンとしてロータリーという団体・グループについての認識度、重要度、関心度の表れの“物差し”だと思います。

その意味では 今、会員のロータリーへの、活動や魅力や関心が、イマイチであるとの評価である、と考えます。

会員、一人一人のロータリーに対する意識が向上し関心が高まり、出席率が向上するには、例会の充実がまずは大切だと思いますし、補完する意味での様々な親睦や奉仕の為の活動の活性化も重要だと考えます。

それぞれの委員会・グループの役割や事業の実施について、今一度それぞれの委員会・グループにおいてより一層の魅力ある活動の実施のための研究、アイデアの提供、協議をお願いしたいと思います。

個人的には、ロータリーの基本は、入会により、社会的な活動の輪が広がり、活動を通じて会員相互のきずなが深まり、永くお付き合いの出来る仲間が増えロータリアンとして、そして何より“人”として成長できる組織だと考えます。

以上、最近、例会や、様々な事業での準備活動を通して感じたこととお話しさせていただきました。

会員の皆様の、クラブでの活動への更なる、積極的なご協力をお願いし、会長挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。よろしくお祈りいたします。

《来賓卓話》

「静岡市の広葉樹の森づくり」

NPO法人静岡山の文化交流センター
理事長 山本良三様



皆さん、こんにちは。今日は静岡市の広葉樹の森づくりについてお話をさせていただきます。

私は1958年に静岡大学山岳部に入部して以来、多くの山に登っていますが、現在では日本山岳会の理事をやりもう10年になっています。自然保護に関係する多くの方に囲まれ幅が広がり「自然保護」に目が覚めました。当時は「自然保護」「環境保全」に関してアゲントの風でしたが、今では様変わりです。

さて私は2000年に5haほどの土地を買いログハウスを建てて、森づくりをやりました。山の手入れの基礎を学び、2005年には南アルプス山岳図書館構想を打ち出し2010年には寸又峡に完成し、今では7000冊の本が貯蔵され、本を眺めながら談笑する場になっています。2006年には静岡登山文化センター構想を提案し、2014年NPO法人静岡山の文化交流センターを設立しました。南アルプスの環境保全と利活用・自然保護を中心に取り組んでいます。

さて、このセンターのスローガンは「知の普及」「価値の創造」「共生と調和」の3つです。

静岡市は、全域面積(約14万ha)に占める森林面積(約10万ha)の割合を森林率といいますが、76%となっており、日本全体の67%を上回る高い率となっています。世界で60%以上の国というのは、日本・スウェーデン・フィンランドのみであり、静岡市はそれより高い水準ということになります。

また、日本の森林はヒノキ・スギ・カラマツが多いものの、その値段は下落傾向にあるのが現状です。木材自給率は一時期20%まで下がったものの、徐々に上がっており、これは今注目を浴びている木材から生まれた新素材「セルロースナノファイバー」等が寄与していると考えられます。

静岡森林の現状を申し上げると、様々な課題があります。例えば、静岡の森林は「杉・檜の単相性で植え過ぎ感」があります。杉や檜は浅根性であり、一方の広葉樹は深根性。広葉樹は天災に強いのにに対し、杉や檜ばかりですと急峻な斜面が多い静岡では心配です。

また「急峻な斜面は伐採搬出の面でも困難」な土地が

多く、「人口も減少、住宅数も減少しているなか、杉・檜の需要も減少」しています。「伐採難、国産材在庫不安定、品質に難あり」、それに対し「品質も安定しており、在庫も十分は外材は国内需要の70%を占めている」のが現状です。

「単相林は固定資産税が高いのにに対し、広葉樹林(雑木林)は低い」等々、他にも様々な問題がありますが、これについては「政治が動かなければ解決しない」と考えています。

原木取引流通はまさに「蛸壺状態」であり、ここを解消する必要があります。中間業者が暗躍し、漁夫の利を得ており、原木価格の相場や市況がない現状を改め「統一市場」を作るべきです。

また品質統一基準を作り、需給アンバランスを解消すべき、そして、広葉樹化補助金制度や間伐・除伐補助金制度改定などやるべきことも多いはずですが。

「森林は放置状態」で林野庁は機能していないとしか言いようがありません。これは各都道府県林にしたらいのが私の持論です。3兆円以上の赤字を抱えている状態です。

この立場だから言えることも多いと思っています。まだまだ道半ばですが、引き続き頑張っていきます。

《スマイル報告》

新聞 桂子 君 本日のゲスト卓話に山本良三さんをお迎えできました事にスマイル致します。

川口 尚宜 君 誕生日のお祝いありがとうございます。51歳になりました。聖路加病院名誉院長であった故日野原先生の100歳まで現役で働き、ピンピンコロリを目指して、後49年がんばります。祈念してスマイルします。

高柳 正雄 君 3時間ほど前、台湾に住む長女が女兒を出産しました。いわゆる高齢の初産で心配しましたが、母子ともに健康のようです。感謝してスマイルします。

《出席報告》

	会員数	出席	欠席	MU	完全欠席	確定出席率
10/5	54(51)	41	10	-	-	-
9/28	55(51)	39	12	-	-	-
9/21	55(52)	37	15	8	7	86.53%

(会報作成 新井 健一)